

公表

事業所における自己評価結果 児童発達支援

事業所名		公表日 令和 7 年 3 月 1 4 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		静養室などの個室対応やパーテーションを利用している。	感染症対策を意識した換気や、静養室などの個室の活用を心がけている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		保育士5名、児童指導員1名、児童発達支援管理責任者1名の有資格者を配置している。	保育士・児童指導員の4～5名が日々の業務を行っているが、マンツーマン対応を要する児童が増えると、職員の人手不足を感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃、消毒を行い清潔な環境に気を配っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		児童1人1人の特性に合わせて、落ち着いて過ごせない場合は、別室や車内など落ち着いて過ごせる場所を探し、職員が付き添っている。	児童1人1人の成長のスピードに合わせて、あせらずに徐々に集団活動の中に入っていけるように関わり、問題行動が減っていくように支援をしている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎朝朝礼を行い、前日の支援の振り返り・特記報告をしている。	上手く行かないことや問題点などの関わり方を話し合い解決に繋げていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎月のミーティングで意見交換を行い、検討・改善を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後の検討課題として第三者評価の活用を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修を実施したり、外部研修の案内を確認して申し込んでいる。	多数の職員が参加しやすいようにzoomなどでのオンライン研修に申し込んでいる。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに支援プログラムを作成して公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画案を元に、職員全員から意見を聞き、聞き取った内容を盛り込んだ計画を作成している。	更新時やモニタリングの際、保護者、相談支援専門員、併用事業所と一緒に面談を行い情報の共有、支援の連携を確認している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		子ども1人1人の特性や行動に合わせた支援項目を設定している。	現状と希望される目標を、分析してスモールステップで段々と目指したい自分の姿に近づいていくことを実感してもらえるように支援に取り組んで行きたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		利用する児童1人1人に応じたプログラムを考え、臨機応変に対応している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			PDCAサイクルに基づいて、随時職員で話し合い、見直しを行っている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、支援が行われているか。	○		集団活動が苦手な子供たちも行事を楽しめるように考えている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			毎朝職員全員で朝礼を行い、その日その日の予定や役割をお互いに確認しているのを継続して行きたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		翌日への特記報告をホワイトボードやノートに記載して情報の共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		作成した記録を、担当者会議の参考資料として提出して情報共有を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月に1回、または状況の変化によっては5ヶ月以内でも随時、計画の変更を行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理者と保育士の2名が参加出来る様に調整をしている。	午前中は調整がしやすいが、午後の児童が利用している時間帯は人手不足になりやすく、保育士が参加出来ない事がある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育所と連携して普段の様子を、訪問して直接見せてもらい情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		七尾病院（児童発達支援センター）の主治医と連携して医療的ケア児への受け入れ態勢を整えている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳やメールも活用するが、可能な限り直接お話しして対面で伝えられるようにしている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	☐		外部からの研修案内を事業所内に掲示し、希望者への配布を行っている。	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	☐			利用者負担額は単位や加算が複雑な為、利用者様には大まかな金額でしか伝えることが出来ない。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	☐		契約前や更新時に、計画書に記載するニーズを聞き取り、作成した正確案を確認してもらってからサービスの提供を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	☐			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	☐			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		☐		保護者が参加しやすい行事等を考えて、可能なら他の事業所と合同で実施を検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	☐		苦情内容を真摯に受け止め解決・改善に努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	☐			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	☐			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	☐		必要に応じて相談支援専門員に同じ内容を伝え、予想される不具合へのフォロー体制を連携して構築している。	
非 常 時 等 の 対 応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	☐		おおばが全面ガラス張りの建物で外から中の様子が見やすい環境である事を活用している。	外から中を覗くと、笑顔で楽しそうな様子が伝わるように支援をしていきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	☐		児童1人1人の連絡帳に緊急時のマニュアル関係の書類を入れて確認しやすいようにしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	☐			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	☐			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	☐			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	☐			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	☐			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	☐			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	☐		虐待チェックリストを活用して職員のセルフチェックを実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	☐		物を壊したり本人または他者への危害があり、他に方法が無い場合のみ身体拘束を行う。	本人、職員が怪我をしないように配慮した拘束は難易度が高く対応可能な職員に限られること、落ち着くまでと落ち着いてからの保護者への状況説明と配慮が必要な事。

公表	事業所における自己評価総括表 児童発達支援
----	-----------------------

○事業所名	放課後等デイサービス あおば			
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	0名
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容に、運動教室、美術・工作教室、音楽教室、エアロビック教室を行っており、それぞれ外部から理学療法士、美術講師、音楽療法士、エアロビック協会（特別支援学校教員等）の専門的な先生をお招きしている。	・活動を通して子供たちの自信を高められるように意識をしている ・子どもたち1人1人の特性に応じたアプローチを行っている。	専門の先生方から頂く意見を参考に、保育士・児童指導員が連携して専門性を生かした支援を行ってきたい。
2	専門の資格を持つ職員が充実していて、保育士が5名、看護師・精神保健福祉士が1名、介護福祉士・認定特定行為業務従事者が1名、准看護師・介護福祉士が1名の、合計8名が在籍している。	医療的ケア児の対応や相談を受け、対応可能な医療行為を実施できるように受け入れ準備を整えている。（経管栄養や喀痰吸引など）	かかりつけの医師、病院（児童発達支援センター）と連携して情報交換や指示書を頂き、病院が利用できない日は、医療的ケアが必要な児童や保護様が安心してあおばを利用出来る様に配慮を行っている。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の利用者が少なく、現在は1週間のうち土曜日に1人が利用されるかどうかという状況である。	多機能型のため、放課後等デイサービスを利用している児童で定員のほぼ全てが満たされている状態であること。	保護者様と相談支援専門員へ空き状況の情報を提供し、僅かな空きがあれば連絡を行い、利用を希望する児童、保護者様にお返事が出来る様に対応している。
2			
3			